

# 第 13 回通常社員総会議案書

第 1 号議案 2025 年度事業報告(案)について

第 2 号議案 2025 年度決算報告(案)・監査報告について

第 3 号議案 2026 年度事業計画(案)について

第 4 号議案 2026 年度収支予算(案)について

第 5 号議案 役員体制について

2026 年 5 月 25 日 16 : 00 ~ 16 : 40

一般社団法人日本電子デバイス産業協会





一般社団法人日本電子デバイス産業協会 2025 年度事業報告(案)  
(2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

一般社団法人日本電子デバイス産業協会

2025 年度の世界経済は、ウクライナ問題が継続、米イラン関係など中東情勢の緊迫化と地政学的なリスクが継続し、原油価格の上昇等で各国の経済政策の動向に不確実な状況が増えてきました。

一方、電子デバイスを取り巻く市場は、パソコン、スマホ向けの需要は今一つ盛り上がりませんが、生成 AI の活用に向けたデータセンター等の IT インフラ拡大向けの需要が増加し、電子デバイス産業はほどほどの状況で推移しました。

こういった中で NEDIA は、「第 12 回電子デバイスフォーラム京都」、「第 12 回通常社員総会」、「2026 年新春セミナー・新年会」等のイベントを開催しました。また、「電子デバイス戦略マップ 2025-2026」の発刊及び説明会を実施、電子デバイス研修講座を WEB 配信併用で実施などチャレンジングな施策を実行するとともに、「NEDIA Day 東北あおもり 2025」「NEDIA Day 九州ふくおか」などのセミナーを開催し、会員支援及び産業界支援につながる諸施策を推進しました。また、NEDIA マガジンの発刊等の会員のコミュニケーションを図る施策を推進しました。

会員の皆様のご支援・ご協力により、以上のイベントを着実に実施するとともに、会員規模も、2013 年 9 月 30 日のスタート時の 198 会員から 256 会員(2026 年 3 月 31 日現在)に増加しました。

## 1. 「第 12 回電子デバイスフォーラム京都」を開催

2025 年 10 月 30 日(木)、10 月 31 日(金)に京都リサーチパーク(KRP)において、「不確実な時代における半導体/電子部品の成長戦略を探る!!」をキャッチフレーズとして、「第 12 回電子デバイスフォーラム京都」を開催しました。

今回は、昨年の第 11 回と同等レベルの参加者数を目指して、プログラム委員会において電子デバイス関連の最新の興味あるテーマに関する意欲的なプログラムの策定に力を入れました。ホワイエでの展示会は 17 ブースで実施し、また、「マーケティングセッション」も継続して実施し、参加者 350 名(第 11 回：350 名、第 10 回：



340 名、第 9 回：320 名、第 8 回：290 名)、延セッション参加数 1230 名(第 11 回：1300 名、第 10 回：1260 名、第 9 回：1,120 名、第 8 回：970 名)と 1,200 名を超えるたくさんの方に参加いただき開催できました。

参加者の交流を深めるレセプションを昨年に引き続き開催し、多くの方に参加いただき盛況でした。例年通り舞妓の舞も実施しました。

参加いただいた会員、電子デバイス関連産業の方々、また、プログラム策定、プロモート及びセッション等の運営にご尽力いただいたプログラム委員及びボランティア各位に感謝申し上げます。以下に、「第 12 回電子デバイスフォーラム京都」の開催報告をします。

## (1) 開催概要

- ①開催日時：2025年10月30日(木)10:00-10月31日(金)17:30
- ②場所：京都リサーチパーク(KRP)  
東地区1号館4階：サイエンスホール、G会議室、A・B・C会議室、ホワイエ、アトリウム、  
西地区4号館B1：バズホール、バンケットホール  
6会場、セッション数：17、講演数：51、展示ブース数：17と昨年とほぼ同規模で実施しました。
- ③セッションごとに作成している17冊の予稿集について、昨年に引き続きカラー印刷とし参加者の便宜を図りました。

## (2) 挨拶・基調講演、マーケティングセッション等

- ①挨拶・基調講演は10月30日(木)10:00から西地区4号館B1バズホールで実施しました。昨年に引き続き9:30からウエルカムコーヒーをバンケットホールに準備し、参加者に利用いただきました。
- ②挨拶・基調講演は司会を中村孝氏(NEDIA 理事、プログラム委員長、大阪大学)が務め、鶴丸哲哉 NEDIA 代表理事・会長、組織委員長の開会挨拶で始まりしました。冒頭の来賓ご挨拶で、鈴木一弥 京都府副知事にお言葉をいただき、松井孝治 京都市長のご挨拶を産業観光局 スタートアップ・産学連携推進室 室長の仲筋裕則様に代読いただきました。  
基調講演は、最初に経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 課長の南部友成 様に「日本の半導体戦略について」と題しご講演いただきました。続いて(株)産業タイムズ社 取締役会長の泉谷 渉 様に「AIと自動車アプリをコアに2030年の電子デバイス産業は200兆円に！！」と題しご講演いただきました。最後に京都企業代表として(株)島津製作所 経営戦略室 室長の岩切省吾郎 様に「科学技術で社会に貢献する」島津製作所の150年の歴史と経営戦略」と題しご講演いただきました。  
会場221名の多数の参加者に熱心に聴講いただきました。
- ③マーケティングセッションは、第4回から引き続き独立したセッションとして10月31日(金)9:20から東地区1号館4階のサイエンスホール及びG会議室(サテライト)を会場として実施しました。電子デバイス分野における第1線でご活躍のアナリスト3名の特別講演で構成し、228名の多数の参加者で熱気のあるセッションとなりました。  
最初に「混沌深まる世界情勢における半導体・装置・電子部品市場見通し」と題し(株)産業タイムズ社 大阪支局長 電子デバイス産業新聞 副編集長の中村 剛 様にご講演いただき、続いて、「2026年度以降のグローバル市場動向と注目すべき半導体市場の今後の見通し」と題し、Semi Business Consulting (株) Chief Consultant & Co-Founderの南川 明 様にご講演いただき、最後に、「テクノロジー・ハードウェア業界見通し：スマホなど完成品・AIサーバー需要見通し、FPDやCMOSセンサなど部品視点も」と題し、みずほ証券(株) エクイティ調査部 グローバル・ヘッド・オブ・テクノロジー・リサーチ/シニアアナリストの中根 康夫 様にご講演いただきました。
- ④A～Eの5コースのセッションを、10月30日(木)午後、10月31日(金)午後に合計15セッションで構成し、参加者それぞれに興味あるセッションを聴講いただきました。Aコースは「新世代モビリティ」をテーマに「特別企画」、「SD/自動運転」、「パワーデバイス」の3セッション、Bコースは「話題の新技术」をテーマに「ロボティクス」、「サーマルエンジニアリング」、「光通信技術・応用」の3セッション、Cコースは「The半導体」をテーマに「EUV、つ・い・に・日本上陸、今その技術の全貌が・・・」、「進化し続けるデバイス構造、プロセス技術・装置技術」、「AI時代を支え進化し続ける半導体デバイス技術・設計技術」の3セッション、Dコースは「跳躍の最先端パッケージ・実装技術」をテーマに「技術・マーケットトレンド」、「光電融合」、「先端PKG」の3セッション、特別セッションは、産学連携の「大学セッション：マテリアル先端

リサーチインフラ」、「AI・ニューロモーフィック半導体」、「中・韓・印 アジア半導体産業の最前線を追う！」の3セッションとしました。

15セッションのうち聴講者の多い順は、①Dコース「技術・マーケットトレンド」、②Cコース「進化し続けるデバイス構造、プロセス技術・装置技術」、③Dコース「先端PKG」、④Cコース「EUV、つ・い・に・日本上陸、今その技術の全貌が・・・」、⑤Dコース「光電融合」、⑥Cコース「AI時代を支え進化し続ける半導体デバイス技術・設計技術」とCコース、Dコースが上位を独占しており、世の中の動向と参加いただいた方の興味がどこにあるかが伺えます。

### (3) レセプション

昨年に引き続きレセプションを、10月30日(木) 17:00-18:30にアトリウムで開催しました。

今回は、例年行っている舞妓の舞を行い、150名を超える参加を得て、いい雰囲気のレセプションとなりました。

司会は(株)産業タイムズ社 特別顧問の佐藤文治氏が務め、17:00に開始しました。主催者挨拶を鶴丸哲哉 NEDIA 代表理事・会長、住友精密工業(株) 代表取締役 社長執行役員が行い、続いて京都企業代表として、(株)村田製作所 代表取締役副社長の岩坪 浩 氏のご挨拶があり、その後に、ローム(株) 社長室エグゼクティブアドバイザーの西村治之 氏の乾杯の発声により、交流の場が始まりました。



17:30頃から舞妓さん2名による舞で、華やかな雰囲気となり、舞台の前が観賞及び写真撮影の場となりました。舞の終了後、舞妓さんは会場を回り参加者と写真を一緒に撮ったりしました。舞妓さんの舞の後、司会から京都企業の紹介として、(株)SCREEN セミコンダクターソリューションズ 執行役員の三河 巧 氏、(株)島津製作所 経営戦略室 室長 岩切省吾郎 氏、(株)島津製作所 営業本部 海外営業ユニット 副ユニット長の樋口 真 氏の三名の紹介がありました。また、電子デバイスフォーラム京都 プログラム委員会委員長、大阪大学大学院教授の中村 孝 氏、NEDIA 理事・相談役、デバイス部会長の齋藤昇三 氏にご挨拶いただきました。最後に、小石秀之 (株)堀場製作所 取締役の締め挨拶があり、レセプションはお開きとなりました。終了後、知己の方同士で、京都の街に繰り出すグループも見られました。

### (4) 展示会

展示会は、ホワイエで行いました。昨年まで行っていた A 会議室での「車載電子デバイスパビリオン」は、A 会議室のセミナー会場への転用のため中止し、ホワイエのブース数を昨年度の 15 から 17 に増やしました。<展示参加会社：12 企業・団体、4 大学(50 音順)>

(株)インターテック販売、(株)FSMC、(株)協同インターナショナル、神津精機(株)、(株)SCREEN セミコンダクターソリューションズ、第一実業(株)、(株)東設、(株)堀場製作所、マイクロニックテクノロジーズ(株)、(株)村田製作所、リソテックジャパン(株)、ローム(株)、大阪大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、山形大学

## (5) アンケート結果

- ① フォーラムの全体的な構成について：プログラムは時流に合っている 30%、プログラムは全体的に満足できる 45%と合わせて 75%と、多くの参加者の評価をいただきました。
- ② フォーラムの運営について：良い 50%、まあまあ 40%と、まずまずの評価をいただきました。
- ③ 次回についての参加について：是非参加したい 35%、プログラムが良ければ参加したい 40%と合わせて 75%の方は再び参加いただけるとの感触を得ました。

## 2. 「電子デバイス戦略マップ 2025-2026 未来社会を変える電子デバイス技術」を発行 「電子デバイス戦略マップ 2025-2026 説明会」を実施

戦略マップ委員会(委員長：鶴丸哲哉 代表理事・会長)において、2016年度に「NEDIA 戦略マップ 2015」、2017年度に「NEDIA 戦略マップ 2017」、2018年度に「電子デバイス戦略マップ 2018」、2019年度に「電子デバイス戦略マップ 2019」、2020年度は「電子デバイス戦略マップ 2020-2021」、2021年度は「電子デバイス戦略マップ 2021-2022」、2022年度は「電子デバイス戦略マップ 2022-2023」、2023年度は「電子デバイス戦略マップ 2023-2024」、2024年度は「電子デバイス戦略マップ 2024-2025」と9冊を発刊してきました。

2025年度は10冊目となる「電子デバイス戦略マップ 2025-2026」(A4版 151ページの冊子)を未来社会を変える電子デバイス技術をテーマにまとめ、2025年7月31日に発刊しました。前回と同様、書籍コードを登録し正規の書籍としました。各会員に1冊を無償配布し、その後、会員(1,800円：税込み)及び非会員(4,070円：税込み)に有償頒布しました。

会員等への無償頒布：350部、会員・非会員への有償頒布：44部の計394部を頒布しており、会員及び電子デバイス産業の関係者の考慮の一助になったと考えています。

電子デバイス戦略マップを広く活用いただくためには、内容について説明会を開催するのが効果的との観点から、昨年度に引き続き説明会を開催しました



### 「電子デバイス戦略マップ 2025-2026」説明会 ～未来社会を変える電子デバイス技術～

開催日時：2026年1月19日(月) 13:00-17:00

開催場所：日本教育会館 喜山倶楽部 光琳の間 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2 日本教育会館 9F

参加費：NEDIA 会員 4,000円、一般 8,000円 (電子デバイス戦略マップ 2025-2026 1冊含む)

参加者数：30名。

<説明会>

司会：戦略マップ委員会事務局員 松本 哲郎

13:00-13:10 戦略マップ委員会委員長挨拶 鶴丸 哲哉 氏

13:10-14:10 「電子デバイス戦略マップ 2024-2025 説明会  
～未来社会を変える電子デバイス技術～」  
戦略マップ委員会 事務局、戦略マップ主筆 松本 哲郎 氏

14:10-15:00 「EV から始まる電力システムの革新」  
九州大学大学院 情報科学研究院 教授、  
戦略マップ委員会 副委員長 寺島 知秀 氏

15:00-15:10 休憩

15:10-16:00 「半導体人材育成の最前線  
～ LSTC/enSET のプログラムが始動～」  
早稲田大学 総合研究機構 招聘研究員、iU 客員教授  
戦略マップ委員会 副委員長 石原 昇 氏

16:00-16:50 「企業の GRC 強化に向けて  
～サイバーセキュリティ最前線～」  
株式会社プリバテック 顧問、  
戦略マップ委員会 特別委員 山下 泰弘 氏

16:50-17:00 閉会挨拶

### 3. 「電子デバイス研修講座(入門編)(基礎編)(特別編 A)(特別編 B)(専門編)」を開催

人材育成研修委員会(委員長：西村光太郎 理事)において、2019 年秋季に電子デバイス研修講座(基礎編)を立ち上げ、2020 年秋季に(中級編)を立ち上げ、2021 年には秋季に(専門編)①②③を立ち上げ、2022 年度には秋季に(入門編)を立ち上げ、体系的には完成となりました。新型コロナウイルス感染拡大への対応、遠隔地からの参加の利便を図るために、2021 年度から会場と WEB 参加を併用して実施しており、2025 年度も引き続き WEB 併用を実施しました。(中級編)の位置づけが分かりにくいという声もあり、名称及び内容を見直し 2024 年度春季講座から(特別編 A)(特別編 B)としました。

2025 年度春季講座(入門編)(基礎編)(専門編)パワーエレクトロニクスは 5 月に開催、2025 年度の後半の講座については 2025 年 12 月に(入門編)(特別編 A)(特別編 B)(専門編：パワーエレクトロニクス)を開催しました。

#### (1) 2025 年度春季講座

##### ① 「電子デバイス研修講座(入門編)」

開催日時：2025 年 5 月 13 日(火)10:00-17:00

開催場所：日本教育会館喜山倶楽部 WEB 配信併用

参加者：15 名

##### ② 「電子デバイス研修講座(基礎編)」

開催日時：2025 年 5 月 12 日(月)10:00-17:00、13 日(火)10:00-17:00 (二日間)

開催場所：日本教育会館喜山倶楽部 WEB 配信併用

参加者：40 名

##### ④ 「電子デバイス研修講座(専門編：パワーエレクトロニクス)」

開催日時：2025 年 5 月 12 日(月)10:00-17:00

開催場所：日本教育会館喜山倶楽部 WEB 配信併用

参加者：4名

## (2) 2025年度後期講座

### ①「電子デバイス研修講座(入門編)」

開催日時：2025年12月2日(火)10:00-17:00

開催場所：日本教育会館喜山倶楽部 WEB 配信併用

参加者：21名

### ②「電子デバイス研修講座(特別編 A)」

開催日時：2025年12月1日(月)10:00-17:00

開催場所：日本教育会館喜山倶楽部 WEB 配信併用

参加者：5名

### ③「電子デバイス研修講座(特別編 B)」

開催日時：2025年12月2日(火)10:00-17:00

開催場所：日本教育会館喜山倶楽部 WEB 配信併用

参加者：5名

### ④「電子デバイス研修講座(専門編)パワーエレクトロニクス」

開催日時：2025年12月1日(月)10:00-17:00

開催場所：日本教育会館喜山倶楽部 WEB 配信併用

参加者：8名

## 4. 展示会への出展

展博委員会(委員長：井内伸哉(株)インターテック販売 顧問)で「第12回電子デバイスフォーラム京都」の展示(1.(4)項参照)を行いました。

また、Medtec Japan 2025 及び SEMICON Japan 2025 に出展しました。

### ①「Medtec Japan 2025」に出展

開催日：2025年4月9日(水)～11日(金)

場所：東京ビッグサイト 東ホール No.3308

会員のポスター展示：6社

### ②「SEMICON Japan 2025」に出展

開催日：2025年12月17日(水)～19日(金)

場所：東京ビッグサイト 西ホール No.W1183

会員のポスター展示：5社

## 5. 部会・地域活動

### (1) ベンチャー部会(部会長：押部弘 理事・副会長)

経済産業省のご協力を得て令和8年度予算・関連施策についての説明会をWEB配信で行いました。NEDIA ゴルフコンペを1回実施し、ベンチャー部会研究会、納涼会も開催しました。

① 「第9回ベンチャー部会勉強会」

日時：2025年8月25日(月)15:00-16:45

会場：喜山倶楽部 光琳の間

プログラム：

15:00-15:05 開会挨拶 NEDIA ベンチャー部会 部会長 押部 弘 氏

15:05-15:55 「Sakae-Denshi Waaaay！」  
株式会社 代表取締役社長 津田 百子 氏

15:55-16:45 「最先端デジタル SoC 設計人材育成プログラム(ADIP) の概要」  
株式会社 F2F グループ 代表取締役 杉野 貴美廣 氏

参加者数：31名

② 「NEDIA 納涼会」

日時：2025年8月25日(月) 17:00-18:30分

場所：喜山倶楽部 飛鳥の間

参加者数：34名

③ 「NEDIA 第12回ゴルフコンペ」を開催

開催日程:10月10日(金)

開催場所:レイク相模カントリークラブ

時間:OUT 9:44 スタート3組 IN 9:44 スタート3組 (キャディは3組のみ確保済み)

料金:一人 16,670円(食事つき。キャディ付)3組

一人 13,370円(食事つき。キャディ無)3組

(+パーティ費 4,000円御) 途徴収します)

参加資格:NEDIA 会員または、NEDIA 会員推薦者

参加者数:21名、優勝:佐藤英樹氏、2位:前田智之氏、3位:山下泰弘氏

③ 「令和8年度政府予算・関連施策 説明会及びJST 事業化支援 説明会」を開催

開催日時：2026年3月9日(月)10:30-11:40 Web 開催

参加資格：NEDIA 会員

参加費：無料

第1部 10:30-11:10

「令和8年度政府予算・関連施策 説明会」

(1) 全体の説明

全体方針と予算一覧表での概要説明

(2) 各施策・事業の説明

半導体関連施策を予定

(3) 質疑・応答

経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 デバイス・半導体戦略室 室長補佐 五味 信之 氏

第2部 11:10-11:40

「JST 支援事業「研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) 産学共同・実装支援の説明」

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

スタートアップ・技術移転推進部 研究支援グループ 副調査役  
実装支援グループ 副調査役

藤原 賢彰 氏  
東中 資喜 氏

参加者数：30名。

## （2）装置・保守部会（部会長：南洋一 理事・副会長）

交流会を開催し、部会員会社のコミュニケーションの向上を図るために、装置・保守部会交流会の開催を検討したが、開催まで至りませんでした。

## （3）材料部品部会（部会長：佐藤中則 理事）

勉強会を4回開催し、会員が必要とする情報を幅広い講師に依頼して実施しました。

### ① 「第47回材料部品部会勉強会」を開催

開催日時：2025年6月23日(月) 14:00-16:20

開催場所：御茶ノ水めっきセンター 4F

14:00-15:00 「インドとの付き合い方 10ヶ条 Do's & Don'ts」

日印コンサルタント 横浜インドセンター 参与他

磯貝 富夫 氏

15:00-15:15 休憩

15:15-16:15 「インド半導体市場の動向と日本企業の進出状況」

ルネサス、東京エレクトロン等が拠点、タタグループと提携」

日本貿易振興機構 理事 対日投資部長

仲條 一哉 氏

参加者数：53名

### ② 「第48回材料部品部会勉強会」を開催

開催日時 2025年9月22日(月) 14:00-16:15

開催場所 御茶ノ水メッキセンター 4階会議室

14:00-15:00 「最近の半導体後工程&パッケージ基板の動向」

(株)産業タイムズ社 電子デバイス産業新聞 特別編集委員

野村 和広 氏

15:00-15:15 休憩

15:15-16:15 「新次元への架け橋：チップレット技術による半導体革命」

Rapidus(株) 専務執行役員・エンジニアリングセンター長 工学博士

折井 靖光 氏

参加者数：53名。

### ③ 「第49回材料部品部会勉強会」を開催

テーマ：「後工程の重要性と OSAT の日本連合の活動」

開催日時：2025年12月8日(月) 14:00-16:15

開催場所：御茶ノ水めっきセンター 4階会議室

14:00-15:00 「アオイ電子の今後の展開と日本 OSAT 連合ご紹介」

アオイ電子(株) 執行役員営業本部長

澤本 修一 氏

15:00-15:15 休憩

15:15-16:15 「アムコーの世界の拠点形成と日本における活動内容」

参加者数：56名。

#### ④ 「第 50 回材料部品部会勉強会」を開催

開催日時：2026 年 3 月 23 日(月) 14:00-16:15

開催場所：日本教育会館喜山倶楽部 光琳の間

14:00-14:30 「シリコン列島の進展でニッポン半導体の逆襲が始まった！  
～30 年ぶりメモリーブームで多大な経済効果」

(株)産業タイムズ社 取締役会長

泉谷 渉 氏

14:30-15:30 「メモリーが切り開く新世界 ～ AI 時代の半導体と価値創造」

キオクシア(株) 先端技術研究所 所長附

橋本 耕治 氏

15:30-15:45 休憩

15:45-16:15 特別対談

登壇者：(株)産業タイムズ社 取締役会長

泉谷 渉 氏

キオクシア(株) 先端技術研究所 所長附

橋本 耕治 氏

参加者数：64 名。

#### (4) デバイス部会 (部会長：齋藤昇三 理事・相談役)

デバイス部会は、具体的テーマを策定して勉強会方式で課題に対する解及び新たな事業を見出すのを目的としており、2025 年度は、AI をテーマに検討しましたが、目立った進展はありませんでした。

#### (5) 九州 NEDIA (代表：櫻井一郎 理事)

「NEDIA Day 九州ふくおか」を開催しました。

#### 「NEDIA Day 九州ふくおか」を開催

開催日時：2026 年 2 月 25 日(水)セミナー：14:00-17:00 交流会：17:10-18:40

開催場所：福岡県中小企業振興センター

〒812-0046 福岡県福岡市博多区吉塚本町 9 番 15 号

<セミナー> ホール A

司会 三宅 賢治 氏(NEDIA 理事・九州 NEDIA 副代表)

13:30 受付開始

14:00-14:05 開会挨拶 NEDIA 代表理事・会長 鶴丸 哲哉 氏

14:05-14:10 来賓ご挨拶 九州経済産業局 地域経済部 情報政策課長 樋上 武 氏

14:10-15:00 講演「ATJ 福岡 R&D センター：日本発、世界へ広がる技術革新」  
(株)アムコー・テクノロジー・ジャパン R&D センター長 馬場 伸治 氏

15:00-15:10 休憩

15:10-16:00 講演「つながる半導体、広がる可能性 ～日本 OSAT 連合会が描く共創のかたち～」  
一般社団法人日本 OSAT 連合会 事務局長 林 力 氏

16:00-16:50 講演「半導体産業は国家安全保障、政治経済の要となる存在  
～シリコン列島ニッポンは九州から北海道まで拡大している！」  
NEDIA 理事・副会長、(株)産業タイムズ社 取締役会長 泉谷 渉 氏

16:50-16:55 閉会の挨拶  
NEDIA 理事・九州 NEDIA 代表、櫻井精技(株) 代表取締役社長 櫻井 一郎 氏

<交流会>ホール C

17:10-18:40

参加者：セミナー：65名、交流会：54名

#### (6) 関西 NEDIA (代表：中村 孝 理事)

関西 NEDIA では、2025 年度も第 12 回となる SSIS-NEDIA 関西シンポジウムを開催しました。

##### 「第 12 回 SSIS-NEDIA 関西シンポジウム」を実施

開催日時：2025 年 8 月 28 日(木)13:15-18:30

開催会場：大阪科学技術センター 7F 701 号室 および 7F レストラン

主催：一般社団法人 半導体産業人協会 (SSIS)

一般社団法人 日本電子デバイス産業協会 (NEDIA)

セミナー参加費：SSIS 会員 NEDIA 会員：3,000 円、非会員：6,000 円、学生：無料

交流会参加費：7,000 円

##### ■「プログラム」

司会：NEDIA 理事・関西 NEDIA 代表

中村 孝 氏

13:15 - 13:25 開会の挨拶 NEDIA 代表理事・会長

鶴丸 哲哉 氏

13:25 - 13:35 ご来賓挨拶 近畿経済産業局 地域経済部 次長

大平 昌幸 氏

13:35 - 14:30 講演 1 「視界不良化で探る半導体・電子デバイス業界の展望」

(株)産業タイムズ社 大阪支社長 電子デバイス産業新聞 副編集長 中村 剛 氏

14:30 - 15:25 講演 2 「半導体業界の明るい未来」

モルガン・スタンレーMUFG(株) マネージングディレクター 和田木 哲哉 氏

15:25 - 15:40 休憩

15:40 - 16:35 講演 3 「PC、スマホの時代から AI 時代を迎える転換期にきた半導体ビジネス」

(株)セミコンダクターポータル 編集長 津田 健二 氏

6:35 - 16:45 閉会の挨拶 SSIS 理事長

吉澤 六朗 氏

##### ■「交流会」

17:00 - 18:30 7F レストラン

参加者：セミナー：76名

#### (7) 東北 NEDIA (代表：川添良幸 理事)

初めての青森県での開催となる「NEDIA Day 東北あおもり 2025」を開催しました。

##### 「NEDIA Day 東北あおもり 2025」を開催しました。

開催日時：2025 年 8 月 22 日(金) セミナー：13:30-16:55 交流会：17:00-19:00

セミナー開催場所：青森市文化交流施設 ねぶたの家ワ・ラッセ・イベントホール

主催：一般社団法人日本電子デバイス産業協会

後援：経済産業省東北経済産業局

東北大学未来科学技術共同研究センター

青森公立大学

青森中央学院大学

<セミナー>

- 13:00 受付開始
- 13:30-13:35 開会挨拶 NEDIA 理事・東北 NEDIA 代表  
東北大学未来科学技術共同研究センター シニアリサーチ・フェロー 川添 良幸 氏
- 13:35-13:40 来賓ご挨拶 東北経済産業局 局長 佐竹 佳典 氏
- 13:40-13:45 来賓ご挨拶 青森県 副知事 奥田 忠雄 氏
- 13:45-13:50 来賓ご挨拶 青森市 市長 西 秀記 氏
- 13:50-13:55 来賓ご挨拶 青森県商工会議所連合会 会長 倉橋 純造 氏
- 13:55-14:00 来賓ご挨拶 青森商工会議所 副会頭 石田 憲久 氏
- 14:00-14:05 来賓ご挨拶 八戸工業大学 学長 船崎 健一 氏
- 14:05-14:55 「理論計算の本質的進展と半導体の将来」  
東北大学未来科学技術共同研究センター シニアリサーチ・フェロー 川添 良幸 氏
- 14:55-15:05 休憩
- 15:05-15:30 「OSAT 連合会の紹介」  
アオイ電子(株) 執行役員 営業本部長 澤本 修一 氏
- 15:30-15:55 「ハイコンポーネンツ青森技術紹介」  
ハイコンポーネンツ青森(株) 執行役員 技術本部長 成田 亨 氏
- 15:55-16:45 「東北シリコンロードの時代がやって来た！！」  
～半導体列島ニッポンの投資の波は北に向かう～  
NEDIA 理事・副会長、(株)産業タイムズ社 取締役会長 泉谷 渉 氏
- 16:45-16:50 閉会の挨拶 NEDIA 理事・相談役 齋藤 昇三 氏

<交流会>

開催日時：2025年8月22日(金) 17:00-19:00

開催場所：青森市文化交流施設 ねぶたの家ワ・ラッセ ・交流学習室

参加者数：セミナー：67名

## 6. 委員会活動

### (1) アクションセミナー委員会 (委員長：齋 秀樹(株)産業タイムズ社)

平日の夕方に開催し主として関東の会員に情報を提供するためにアクションセミナーを企画し、注目市場について、アクションセミナーを1回開催しました。

#### ① 「第39回アクションセミナー」を開催

開催日時：2025年11月28日(金) 17:00-18:30

開催場所：喜山倶楽部 松の間

テーマ

「日本半導体復活の日はついに近づいてきたのだ！」

～異次元の政府の支援策、外資の企業誘致、国内半導体の投資拡大～

講師：(株)産業タイムズ社 取締役会長、NEDIA 理事・副会長

泉谷 渉 氏

タイムテーブル

16:30- 受付開始

17:00-18:20 セミナー

18:20-18:30 質疑応答及び意見交換会(終了は 18:30 を予定)

参加者数：31 名

## (2) 戦略マップ委員会 (委員長：鶴丸哲哉 代表理事・会長)

NEDIA ならではの戦略マップの策定を 2015 年から開始し、2025 年度は委員会を 9 回開催し、未来社会の変化を見据え、社会に貢献する電子デバイス技術 をテーマに議論を進め、2025 年度は 10 冊目となる「電子デバイス戦略マップ 2025-2026」を 2025 年 7 月 31 日に発行しました。書籍コードを登録し、正式の書籍としています。

2025 年度の委員会活動としては、コロナで変化する未来社会をイメージアップし、未来社会を創る注目技術を整理、評価し、未来社会の実現につなげる技術を明らかにすることを主眼として進め、引き続き「電子デバイス戦略マップ 2026-2027」を発行することを目指して検討してきました。まとめる方向については、2026 年新春セミナーで報告し、また新春記者会見でプレスリリースしました。

また、会員を含めた関係者に活用を図っていただくために、2021 年度から説明会を企画しており、第 5 回説明会を 2025 年 1 月 19 日(月)に実施しました。

## (3) 新事業創生委員会 (委員長：南 洋一 理事・副会長)

NEDIA としての新事業及び会員の中での新事業創生に向けた活動を行っています。

- ① 電子デバイス分野にアプローチするエヌディアイ(株)を 2018 年 6 月 21 日に設立し、2021 年度からは電子デバイス研修講座の運営委託を行ってきました。エヌディアイ(株)は新規事業の展開を模索してきましたが、先行きは厳しく、2026 年 3 月 23 日の株主総会において 2026 年 3 月 31 日での解散を決議し、2026 年 6 月 30 日までの清算処理に入っています。
- ② 会員間の業種間のマッチングの仕組みの検討を進めています。

## (4) 電子デバイス・応用システム設計環境委員会 (委員長：小篠隆宏 理事)

電子デバイス、応用システムの設計活動が活発になり、電子デバイス産業の拡大に寄与するような枠組みを検討中です。

## (5) コンプライアンス委員会 (委員長：漆原育子(アーズ(株)))

独占禁止法遵守等の法令への対応及び知的所有権についての対応を検討していきます。知的所有権については、知的所有権分野の会員の連携を模索しています。

## (6) 展博委員会 (委員長：井内伸哉(株)インターテック販売))

展博委員会は、NEDIA に関連した展示会への対応を行いました。(4. 項参照)

## (7) 人材育成研修委員会 (委員長：西村光太郎 理事)

世の中の変化が急速に進み必要なスキルが変化しつつある中で、電子デバイスに携わる方々が持つと効果的なアイテムを選定し教育研修していくことで、会員及び電子デバイス産業関連の発展に寄与することを目的として電子デバイス研修講座の拡充・体系化の推進を行なっています。

2025 年度は、5 月に(入門編)(基礎編)(専門編)パワーエレクトロニクス、2025 年 12 月に(入門編)(特別編 A)(特別編 B)(専門編)パワーエレクトロニクス を開催しました。

## 7. 本部イベント

### (1) 第12回通常社員総会・交流会

「第12回通常社員総会」を2024年5月27日(月)16:00-16:40に喜山倶楽部飛鳥の間で、会場での通常の方式で実施しました。正会員数166のうち出席33、委任状提出60件で合計93の過半数の出席を得て、齋藤昇三代表理事・会長を議長として飛鳥の間で開始しました。報告・説明は前面スクリーンにスライドを投射して行いました。

第1号議案：「2024年度事業報告(案)について」及び第2号議案：「2024年度決算報告(案)・監査報告」、第3号議案：「2025年度事業計画(案)」、第4号議案：「2025年度収支予算(案)」及び第5号議案：「役員改選」の説明を行い、質疑の後、第1号議案・第2号議案、第3号議案・第4号議案及び第5号議案について採決を行い、委任状で賛同いただいた正会員および出席正会員の過半数の賛成を得て原案どおり承認されました。最後に齋藤議長より会員及び役員に対してNEDIA発展のために協力を要請して社員総会はとどこおりなく閉会となりました。社員総会終了後、WEB会議併用方式で臨時理事会を開催し、代表理事・会長に鶴丸哲哉理事を選出し、その他の理事の役職等を決定しました。

通常社員総会后、＜交流会＞(17:00-18:30)を実施しました。

交流会参加者数：71名

### (2) 2026年新春セミナー・新年会の開催

2026年の新春セミナー・新年会を2026年1月26日(月)に喜山倶楽部で開催しました。

#### 「2026年新春セミナー・新年会」を開催

##### ●新春セミナー

開催日時：2026年1月26日(月)14:00-17:00

開催場所：日本教育会館喜山倶楽部 光琳の間

プログラム：

14:00-14:05 開会挨拶 NEDIA 代表理事・会長 鶴丸 哲哉 氏

14:05-14:55 「電子デバイス戦略マップ 2026-2027 の概要」  
戦略マップ委員会主筆 松本 哲郎 氏

14:55-15:45 「シリコン列島ニッポンの新時代が始まった！！」  
㈱産業タイムズ社 取締役会長 泉谷 渉 氏

15:45-16:00 休憩

16:00-16:50 「2026年半導体市場展望(仮題)」

Semi Business Consulting(株)

Chief Consultant & Co-Founder

南川 明 氏

16:50-16:55 閉会挨拶 NEDIA 理事・副会長

南洋一 氏

##### ●新年会 17:10-18:40

場所：日本教育会館喜山倶楽部 飛鳥の間

ビンゴ大会を実施

参加者：セミナー：117名、新年会：105名

## ●新春記者会見

日時：2025年1月26日(月)16:20-16:50 喜山倶楽部 芙蓉の間にて記者会見実施

鶴丸哲哉 代表理事・会長から2026年度の抱負及び電子デバイス戦略マップ2026-2027について説明しました。

## 8. 情報提供事業

### (1) 定期刊行物の発行

NEDIA マガジンを、2025年7月(第29号)、2026年1月(第30号)の2回発行しました。

会員名簿を2025年7月に発行しました。

NEDIA マガジン、会員名簿への広告募集を行い、会員から申し込まれました。

### (2) ホームページの展開・メール配信

NEDIA のホームページは随時変更して会員に新しい情報を提供しました。

HPにおける広告の募集を行い、会員から申し込まれました。

セミナー等のイベント情報及び関係省庁からの通達等を適宜、会員にメール配信しました。

## 9. 事務局報告

### (1) 会員状況(2026年3月31日現在)

正会員：169 賛助会員：25 個人会員：62 会員総数：256

2013年9月30日NEDIA発足時の198会員から58会員(29%)増加しました。

### (2) 事務局の状況 専任：3名、嘱託：1名、ボランティア：1名

### (3) 理事・監事・顧問(2026年3月31日現在)

理事：22名、監事：2名、顧問：3名

<理事・監事・顧問>

\*は常勤役員

役職名	氏名	所属
理事(代表理事・会長)	鶴丸 哲哉	住友精密工業(株) 代表取締役 社長執行役員
理事(副会長)	泉谷 渉	(株)産業タイムズ社 取締役会長
理事(副会長)	岩坪 浩	(株)村田製作所 代表取締役 副社長
理事(副会長、ベンチャー部会長)	押部 弘	(株)東設 代表取締役社長
理事(副会長)	瀬川 澄江	東京エレクトロン(株) 執行役員 Corporate Innovation 本部 ディビジョンオフィサー
理事(副会長、 装置・保守部会長)	南 洋一	リソテックジャパン(株) 代表取締役
理事(常務理事・事務局担当)	周藤 仁吉*	(一社)日本電子デバイス産業協会
理事(事務局長)	堀 徹	野村マイクロ・サイエンス(株)
理事(東北 NEDIA 副代表)	相原 正巳	アルプスアルパイン(株) 執行役員 CTO コンポーネント事業担当
理事 (ベンチャー部会副部会長)	小篠 隆宏	ケイレックス・テクノロジー(株) 代表取締役社長
理事(東北 NEDIA 代表)	川添 良幸	東北大学 未来科学技術共同研究センター シニアリサーチ・フェロー
理事	北村 隆幸	メテック(株) 代表取締役社長
理事(相談役、 デバイス部会長)	齋藤 昇三	(一社)電子デバイス産業協会
理事(九州 NEDIA 代表)	櫻井 一郎	櫻井精技(株) 代表取締役社長
理事(デバイス部会副部会長)	佐々木 元	(株)メガチップス 理事 ASIC 事業本部 副事業本部長
理事(材料部品部会長)	佐藤 中則	(株)野毛電気工業 代表取締役社長
理事	清水 孝雄	アーズ(株) 代表取締役社長
理事	千葉 芳弘	日総工産(株) 人財育成部 スペシャリスト
理事(関西 NEDIA 代表、 デバイス部会副部会長)	中村 孝	ネクスファイ・テクノロジー(株) 代表取締役社長、 大阪大学 教授
理事	西村 光太郎	元 (株)日立製作所 半導体グループ 甲府製造本部長
理事	南部 修太郎	(株)アセット・ウィッツ 代表取締役
理事(九州 NEDIA 副代表)	三宅 賢治	オフィス三宅 代表
監事	釜原 紘一	元 三菱電機(株) 半導体マーケティング 部長
監事	川端 章夫	イントループ(株) 取締役、元(株)東芝
顧問	飯塚 哲哉	ザインエレクトロニクス(株) 代表取締役会長
顧問	河崎 達夫	元 (株)システム LSI センター 代表取締役
顧問	垂井 康夫	東京農工大学 名誉教授

2025年度

# 決算報告書

自 2025年4月 1日

至 2026年3月31日

## 目 次

- I 貸借対照表
- II 正味財産増減計算書
- III 財務諸表に対する注記
- IV 附属明細書
- V 財産目録

千代田区神田佐久間町2-13  
一般社団法人日本電子デバイス産業協会

# I 貸借対照表

2026年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1.流動資産			
現 金 預 金	9,085,236	7,417,068	1,668,168
棚 卸 資 産	2,593,450	2,646,800	△ 53,350
前 払 金	570,657	547,107	23,550
未 収 金	229,250	604,156	△ 374,906
流動資産合計	12,478,593	11,215,131	1,263,462
2.固定資産			
(1)特定資産			
退職給付引当資産	1,595,721	1,591,198	4,523
新事業創生基金	1,000,000	1,000,000	0
特定資産合計	2,595,721	2,591,198	4,523
(2)その他固定資産			
什 器 備 品	3	3	0
敷 金	533,336	533,336	0
投 資 有 価 証 券	100,000	100,000	0
その他固定資産合計	633,339	633,339	0
固定資産合計	3,229,060	3,224,537	4,523
資産合計	15,707,653	14,439,668	1,267,985
II 負債の部			
1.流動負債			
未 払 金	6,288	6,683	△ 395
前 受 金	1,823,300	1,335,700	487,600
預 り 金	92,592	85,512	7,080
流動負債合計	1,922,180	1,427,895	494,285
2.固定負債			
退職給付引当金	1,590,000	1,590,000	0
固定負債合計	1,590,000	1,590,000	0
負債合計	3,512,180	3,017,895	494,285
III 正味財産の部			
1.指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2.一般正味財産			
一般正味財産合計	12,195,473	11,421,773	773,700
正味財産合計	12,195,473	11,421,773	773,700
負債及び正味財産合計	15,707,653	14,439,668	1,267,985

## II 正味財産増減計算書

2025年4月1日から2026年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1.経常増減の部			
(1)経常収益			
入会金・会費収入	[ 25,735,331 ]	[ 25,260,832 ]	[ 474,499 ]
入会金・会費収入	25,735,331	25,260,832	474,499
事業収入①	[ 4,303,148 ]	[ 4,584,945 ]	[ △ 281,797 ]
セミナー事業	2,030,000	2,037,000	△ 7,000
共同研究及び会員交流	1,745,000	1,921,000	△ 176,000
新規事業	528,148	626,945	△ 98,797
事業収入②	[ 10,294,052 ]	[ 9,943,180 ]	[ 350,872 ]
フォーラム参加費	6,865,315	7,688,180	△ 822,865
展示会出展費	2,860,000	2,167,000	693,000
協賛会	414,737	0	414,737
その他	154,000	88,000	66,000
事業収入③	[ 3,213,050 ]	[ 3,409,990 ]	[ △ 196,940 ]
入門講座	1,039,750	799,250	240,500
基礎講座	1,569,000	914,270	654,730
専門講座	274,500	239,800	34,700
特別講座	329,800	1,456,670	△ 1,126,870
受取利息	[ 38,124 ]	[ 10,227 ]	[ 27,897 ]
寄附金	[ 15,000 ]	[ 10,000 ]	[ 5,000 ]
経常収益計	43,598,705	43,219,174	379,531
(2)経常費用			
事業費①	[ 18,267,408 ]	[ 16,981,272 ]	[ 1,286,136 ]
セミナー事業(本部)	210,531	437,502	△ 226,971
セミナー事業(部会及び地域)	1,527,686	876,571	651,115
情報提供事業	1,094,150	1,162,510	△ 68,360
共同研究及び技術・人・事業の交流機会提供	5,666,526	5,639,787	26,739
ベンチャー事業環境改善	66,165	69,912	△ 3,747
新規事業開発費	965,561	827,466	138,095
支払手数料	113,080	80,680	32,400
給料手当	7,287,000	6,665,000	622,000
通信費	320,252	313,726	6,526
事務消耗品費	15,667	13,005	2,662
業務委託費	720,791	624,800	95,991
その他	279,999	270,313	9,686
事業費②	[ 8,826,992 ]	[ 9,007,975 ]	[ △ 180,983 ]
事業運営費	( 8,423,821 )	( 8,573,463 )	( △ 149,642 )
会場費用	2,493,037	2,297,597	195,440
ブース装飾費	1,672,000	1,720,620	△ 48,620
講師謝礼	1,646,820	1,817,931	△ 171,111
予稿集印刷費	1,617,000	1,683,000	△ 66,000
WEB製作費	66,000	66,000	0
広告費	110,000	110,000	0
運営スタッフ費	26,633	177,656	△ 151,023
委員会スタッフ費	792,331	677,311	115,020
その他	0	23,348	△ 23,348
事業管理費	( 403,171 )	( 434,512 )	( △ 31,341 )
事務局員給与	352	22,406	△ 22,054
旅費・交通費	295,613	266,110	29,503
通信費	13,339	51,328	△ 37,989
事務消耗品費	17,467	17,118	349
会議・交際費	36,140	40,920	△ 4,780
支払手数料	40,260	33,630	6,630
租税公課	0	3,000	△ 3,000
事業費③	[ 4,226,632 ]	[ 4,322,146 ]	[ △ 95,514 ]
事業運営費	( 3,542,793 )	( 3,725,565 )	( △ 182,772 )
会場費用	1,110,400	1,275,830	△ 165,430
講師謝礼	1,330,685	1,543,409	△ 212,724
テキスト印刷費	792,000	772,860	19,140
運営スタッフ費	169,012	51,948	117,064
委員会スタッフ費	140,696	81,518	59,178
事業管理費	( 683,839 )	( 596,581 )	( 87,258 )
旅費・交通費	55,344	39,121	16,223
通信費	51,701	36,223	15,478
事務消耗品費	4,804	6,037	△ 1,233
支払手数料	21,990	15,200	6,790
業務委託費	550,000	500,000	50,000
管理費	[ 11,351,973 ]	[ 11,580,958 ]	[ △ 228,985 ]
事務局員給与	3,052,800	2,793,000	259,800
旅費・交通費	1,005,577	981,770	23,807
事務所家賃	1,906,671	1,760,004	146,667
光熱費	164,037	167,010	△ 2,973
通信費	248,509	162,744	85,765
事務消耗品費	71,922	83,093	△ 11,171
会議・交際費	457,369	338,095	119,274
支払手数料	35,640	36,740	△ 1,100
租税公課	769,532	1,145,559	△ 376,027
法定福利費	1,023,883	1,121,424	△ 97,541
業務委託費	1,615,048	1,681,048	△ 66,000
その他	1,000,985	1,310,471	△ 309,486
経常費用計	42,673,005	41,892,351	780,654
評価損益等調整前当期経常増減額	925,700	1,326,823	△ 401,123
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	925,700	1,326,823	△ 401,123
2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
徴収不能額	152,000	4,000	148,000
経常外費用計	152,000	4,000	148,000
当期経常外増減額	△ 152,000	△ 4,000	△ 148,000
当期一般正味財産増減額	773,700	1,322,823	△ 549,123
一般正味財産期首残高	11,421,773	10,098,950	1,322,823
一般正味財産期末残高	12,195,473	11,421,773	773,700
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	12,195,473	11,421,773	773,700

### Ⅲ 財務諸表に対する注記

#### 1.継続組織の前提に関する注記

該当なし。

#### 2.重要な会計方針

##### (1)有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券……すべて時価がないため、移動平均法による原価法を採用している。

##### (2)棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産については、最終仕入原価法を採用している。

##### (3)固定資産の減価償却の方法

什器備品については、定額法を採用している。

##### (4)引当金の会計処理

退職給付引当金…職員に対する退職金の支払に備えたものとして計上している。

##### (5)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式を採用している。

#### 3.重要な会計方針の変更

該当なし。

#### 4.基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
退職給付引当資産	1,591,198	4,523	0	1,595,721
新事業創生基金	1,000,000	0	0	1,000,000
合 計	2,591,198	4,523	0	2,595,721

#### 5.基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの 充当額)	(うち一般正味財産からの 充当額)	(うち負債に 対する額)
特定資産				
退職給付引当資産	1,595,721	-	-	( 1,595,721 )
新事業創生基金	1,000,000	( - )	( 1,000,000 )	( - )
合 計	2,595,721	( 0 )	( 1,000,000 )	( 1,595,721 )

#### 6.固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什 器 備 品	458,950	458,947	3
合 計	458,950	458,947	3

#### 7.その他公益法人の資産、負債及び正味財産の状態及び正味財産増減の状況を明らかにするために必要な事項 資産除去債務に関する注記

当法人は事務所に係る不動産賃貸借契約に基づき、退去時における現状回復義務を有している。

しかし、当該債務に関する賃借資産の使用期間が明確でなく、かつ、将来移転等の予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができない。

そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上していない。

## IV 附属明細書

### 1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記に記載しているため、省略。

### 2. 引当金の明細

財務諸表に対する注記に記載しているため、省略。

# V 財産目録

2026年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量数	使用目的等	金額	
(流動資産)	現金預金	手元保管	運転資金として	483,118	
		普通預金			
	棚卸資産	みずほ銀行日本橋支店	運転資金として	3,312,346	
		三菱UFJ銀行室町支店	運転資金として	5,289,772	
		在庫として1,118部	戦略MAP2015 (20冊×@1,386)	2,593,450	
			戦略MAP2017 (20冊×@1,132)		
前払金	SEMIジャパンに対するもの等	メンバーシップ年会費、事務局の4月家賃他	570,657		
未収金	9件	年会費他	229,250		
流動資産合計				12,478,593	
(固定資産)	特定資産	退職給付引当資産	みずほ銀行日本橋支店	職員の退職金の支払いに備えたもの	1,595,721
		新事業創生基金	みずほ銀行日本橋支店	将来的な新事業の実施を見据えたもの	1,000,000
	その他固定資産	什器備品	ネット配信用パソコン他	継続事業、その他事業及び法人の管理運営の用に供している	3
		敷金	竹内ビルに対するもの	事務局に係るもの	533,336
		投資有価証券		エヌディアイ(株)	100,000
固定資産合計				3,229,060	
資産合計				15,707,653	
(流動負債)	未払金		ヤマト運輸配送料他	6,288	
	前受金	会員に対するもの等	2026年度会費他	1,823,300	
	預り金	従業員及び講師に対するもの	源泉所得税	92,592	
流動負債合計				1,922,180	
(固定負債)	退職給付引当金	従業員に対するもの	職員に対する退職金の支払に備えたもの	1,590,000	
固定負債合計				1,590,000	
負債合計				3,512,180	
正味財産				12,195,473	

2026年4月20日

一般社団法人 日本電子デバイス産業協会  
代表理事・会長 鶴丸 哲哉 殿

一般社団法人 日本電子デバイス産業協会

監事 釜原 紘一

監事 川端 章夫

## 監査報告書

私たち監事は、2025年4月1日から2026年3月31日までの当法人の事業年度の理事の職務の執行について監査を行いましたので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第99条第1項の規定に基づき本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

### 1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及びその使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要会議に出席し、理事等からその職務の執行について報告を受け、書類等を閲覧し、当法人の事務所において業務及び財産の状況を調査しました。

以上の方法によって、当該年度に係る事業報告及びその附属明細書を監査しました。

さらに会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該年度に係る計算書類及びその附属明細書について監査しました。

### 2 監査の結果

#### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

#### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

計算書類及びその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

一般社団法人日本電子デバイス産業協会 2025年度事業計画(案)  
(2026年4月1日～2027年3月31日)

一般社団法人日本電子デバイス産業協会

2026年度は、ウクライナの問題の継続及び米イラン関係等の中東情勢の不透明感による世界のエネルギー供給への影響が懸念され、こういった地政学的なリスクの長期化も予想され、世界経済の見通しには不透明感が漂うと思われま

す。電子デバイスにおいては、DX、GXが同時進行する社会に本格的に移行するという見方もあり、また、経済安全保障に向けて半導体の競争力復活のための具体策も出てきており、電子デバイスの大きな成長が期待されていますが、地政学的リスクの影響が不確定要因となりそうです。

こういった中で、NEDIAは次の10年に向けて進んでいくわけですが、外部環境の変化に注意をはらいながら、オールジャパン体制で横断的な種々の業種の有機的連携を深め、草の根的にオープンイノベーションを進めていくという初志の施策を推進し、初志の具現化を図り新たな時代に向けて、着実に発展していく基盤の構築を目指す年度にしていきたいと考えます。

そのために、300会員を目指した会員拡大を進めるとともにオールジャパン体制の確立、「第13回電子デバイスフォーラム京都」の開催、「電子デバイス戦略マップ2026-2027」の発行・説明会の実施と活用、電子デバイス研修講座のニーズに対応した積極的運営、新事業創生活動等により横断的戦略機能を発揮していくとともに、新しい施策の検討も進めていきたいと考えています。会員の皆様とのコミュニケーションの場を増やすことも考え、さらに会員支援及び産業界支援につながる諸施策を着実に推進していきます。これを実現していくためには、財務基盤の整備が重要で、新事業による収入増を図るとともに、イベント等の収支確保等を図り、期末正味財産残高を積み増していきたいと、会員の皆様方のご協力・ご支援をお願い致します。

## 1. 組織の拡大

### (1) 会員数の拡大

海外を含めて300会員の実現を目指します。業務執行理事を中心とした役員全員で、会員拡大活動を強力に推進していきます。

### (2) オールジャパン体制の推進

- ① 現在の4拠点(東北、関東、関西、九州)のさらなる活性化及び北海道を中心とした日本半導体復活の動きに連携していきます。
- ② アプリ分野も含めNEDIAのカバー分野における業界団体等との連携強化、各地域の団体及び各業界の団体との連携を進めていきます。

## 2. 第13回電子デバイスフォーラム京都の開催

- ① 2025年度に引き続き2026年度も電子デバイスフォーラム京都を開催します。

開催予定日：2026年10月29日(木)、10月30日(金)、場所：京都リサーチパーク(KRP)

- ③ 組織委員長：鶴丸哲哉 理事・副会長、プログラム委員長：中村孝 理事・関西NEDIA代表の体制を進めます。
- ④ 第12回の成功点、反省点を踏まえて、魅力あるプログラムを策定しプロモートの仕方等も改善

し参加者数を確保するとともに、費用削減を図り、収支プラスを確実に確保する施策を推進します。

- ⑤ 第13回は第12回に引き続き、WEB配信の併用はしないで、会場での実施に集中して実施していきたく考えています。ホワイエでの展示会も17ブースを維持して推進していきます。
- ⑥ 会場であるKRPも手狭になってきておりますので、今後、新しい会場で規模を拡大したいと考えており、2016年度に新しい会場を選定して、第15回から新会場での開催を目指して準備していきたく考えています。

### 3. 「電子デバイス戦略マップ 2026-2027」の発行及び活用

(戦略マップ委員会(委員長：鶴丸哲哉 代表理事・会長))

- ① 2025年度から2026年度にかけてまとめた「電子デバイス戦略マップ 2026-2027」のレポートを2026年7月に発行し、会員その他に参照いただき、それぞれで活用いただけるようにします。2025年度に引き続き戦略マップの説明会を実施し、関係者に戦略マップの内容を理解いただくことによって、戦略マップを役立てていきたく考えています。
- ② 戦略マップは2016年から10冊発行してきましたが、10冊目となる電子デバイス戦略マップ2026-2027は、アフターコロナで変化する未来社会をイメージアップし、未来社会を創る技術・事業を俯瞰し、電子デバイス産業が目指す新しい価値で作る未来社会を可視化し、未来社会の実現につながる注目技術の評価をきちんと行い、明確にしていくことを主眼としてまとめています。
- ③ 戦略マップでの評価の高い技術の中から、2026年度は2025年度に引き続きAI関連のテーマを選び、デバイス部会、新事業創生委員会等と連携して研究会・勉強会の具体的立ち上げを推進していきたく考えています。さらにテーマの深堀りを行うとともに解を具体的に求めていき、会員の事業創生への寄与を図る方向で進めて行きたく考えております。
- ④ NEDIAで書籍コードをとり、アマゾン等での販売を可能にして、外部への販売増を目指します。
- ⑤ 2026年度の委員会活動は、「電子デバイス戦略マップ 2027-2028」の発行に向けて引き続き未来社会(2030年)をテーマに、その実現に向け、バックキャストで整理し、変化する未来社会のイメージアップを図り、未来社会の実現につながる技術を提示していきます。

### 4. 「電子デバイス研修講座」のニーズに合った戦略的運営の推進

(人材育成研修委員会(委員長：西村光太郎 理事))

電子デバイス産業にかかわる人材のスキルアップ・底上げをしていくことは、電子デバイス産業発展のための重要事項ですので、それを研修講座等で強力に推進していきます。2019年11月に電子デバイス研修講座(基礎編)を立ち上げ、2020年度に(中級編)を加え、2021年度に(専門編)も立ち上げ、2022年度は入門講座の立ち上げも含めさらなる体系化・拡充を進め、ほぼ目指した体系を完成させてきました。受講者のニーズは日本の電子デバイス産業復活の動きの中で変化しつつあり、2024年度には(中級編)を(特別編 A)(特別編 B)に改組しましたが、今後のニーズの変化を注視しながら、(専門編)の世に受けるテーマでの運営等、NEDIAならではの効果的な運営をしていくことを目指します。

#### ① 電子デバイス研修講座の有効な運営の推進

電子デバイス研修講座について、(入門編)・(基礎編)・(特別編 A)・(特別編 B)、(専門編)の構成で、世の中のニーズに合わせた有効な運営を行っていきます。(専門編)のテーマの検討を行

っていきたく考えています。

- ② 2020 年度～2022 年度は新型コロナウイルス感染防止対応として Teams による WEB 配信または WEB 配信併用で電子デバイス研修講座を実施しましたが、引き続き 2026 年度も WEB 配信併用を実施し、特に遠隔地からの参加の利便を図っていきます。
- ③ 人材育成研修委員会としては、有効な運営方法の確立・実施に注力する必要があり、事務局も含めた負担軽減のために、運営効率の向上策を検討し、全体的な効率向上を図っていきます。(基礎編)については、新入社員の教育に適していると思われるので、パートナー企業との連携を進め、新入社員の教育に使っていただけるようにアプローチしていきたく考えています。(入門編)については、広く活用いただくために、オンデマンドの配信についての検討をしていきたく考えています。
- ④ 大学及び他団体との連携を推進  
優秀な技術者に電子デバイス産業にかかわっていただくことは、電子デバイス産業発展にとって非常に重要です。大学及び他団体との連携により、参加いただける可能性を高める施策の検討を進めます。半導体人材育成の産官学のコンソーシアムと連携していくことも考えていきます。
- ⑤ 電子デバイス産業にかかわる資格・検定・リカレント教育等へのアプローチ  
中期的事項として、資格・検定・リカレント教育等の実現に向けて、検討を続けていきたいと考えています。

## 5. 電子デバイス産業を取り巻く新しい情報の発信力強化

(首都圏フォーラム委員会の設置(委員長：堀 徹 理事))

NEDIA では首都圏におけるセミナー等での会員への情報発信は、新春セミナー、材料部品部会勉強会、ベンチャー部会勉強会及びアクションセミナーで行っている。コロナ後の社会の変化、技術の進歩・変化のスピードは従来よりかなり早くなってきています。

こういった状況ですので、首都圏フォーラム委員会を設けて、首都圏で行っているセミナーの企画・運営を首都圏フォーラム委員会に統合して、NEDIA 会員及び電子デバイス産業に関連する方々に、変化しつつある社会・市場の情報を正確に早く届けていくようにします。

2026 年 6 月に首都圏フォーラム委員会設けて、準備を開始して 8 月から実施していきたく考えています。

## 6. 新たな事業の立ち上げ (新事業創生委員会(委員長：南洋一 理事・副会長))

- ① NEDIA の新事業を立ち上げることにより事業収入を得て、NEDIA の財務基盤の強化を図ります。
- ② 幅広い会員及び非会員も含めたニーズ・シーズをすり合わせる機会を作り会員相互の連携から新しい製品・事業を創生する手助けをします。
- ③ 戦略マップ委員会、ベンチャー部会、デバイス部会等と連携し、アイテムを探していきます。

## 7. 展示会への出展 (展博委員会(委員長：井内伸哉 (㈱インターテック販売 顧問))

- ① セミコンジャパン 2026、Medtec Japan2026 は例年通りに出展していく予定です。
- ② NEDIA としての出展の企画・運営を行うとともに、NEDIA ブースでの会員のポスター展示、PR 資料の取り置き等で会員の PR のお手伝いをします。
- ③ 電子デバイスフォーラム京都のように展示を含んだイベントの展示部分の企画・運営を行います。

- ④ 「電子デバイスフォーラム京都」に加え、新しいロケーションでの数年後の開催の検討をします。

## 8. 部会・地域活動

### (1) ベンチャー部会 (部会長：押部弘 理事・副会長)

- ①毎回 10～30 人程度の参加でベンチャー交流会を適宜開催し、会員の紹介・交流会等で密なコミュニケーションを行い、会員間の具体的な連携等で新しい展開を図っていきます。首都圏フォーラム委員会と連携して進めます。
- ②ベンチャー会員の支援についての施策を推進します。法務相談会、税務相談会等、必要なアイテムを徐々に拡大します。
- ③国・自治体等のベンチャー企業・中小企業支援のプログラムの説明会・紹介を行います。
- ④新事業創生委員会・事務局等と連携し、ベンチャー会員と大企業との橋渡しのお手伝いをします。
- ⑤会員間のコミュニケーションを高めるために、ゴルフコンペ、納涼会の開催をします。

### (2) 装置・保守部会 (部会長：南 洋一 理事・副会長)

- ①会員間のコミュニケーション向上のためのイベント開催を検討していきます。セミナーについては、首都圏フォーラム委員会と連携していきます。
- ②会員及び非会員からのニーズの紹介およびそれに対する会員の対応のつなぎ等、必要に応じて技術情報交換会・見学会を企画していきます。

### (3) 材料部品部会 (部会長：佐藤中則 理事)

部会にとって必要な情報を選択・取得等については、首都圏フォーラム委員会と連携して進めます。

### (4) デバイス部会 (部会長：齋藤昇三 理事)

- ①NEDIA の中核の電子デバイス分野での活動を行います。
- ②電子デバイスの分野で重要課題についてテーマを定め、研究会方式で解を見つけていくことを考えます。2026 年度は電子デバイス戦略マップから AI 関連をテーマに選択し、研究会・勉強会・プロジェクトを構成して推進します。首都圏フォーラム委員会との連携も考えていきます。

### (5) 九州 NEDIA (代表：櫻井一郎 理事)

- ①NEDIA Day 九州を企画・運営します。2026 年度は福岡 or 熊本での開催を企画しています。
- ②九州における NEDIA の趣旨に賛同する団体との連携を進めます。

### (6) 関西 NEDIA (代表：中村 孝 理事)

- ①NEDIA Day 関西を大阪及び有効な場所で企画・運営します。
- ②関西における NEDIA の趣旨に賛同する団体との連携を進めます。
- ③可能な範囲で電子デバイスフォーラム京都のサポートを行います。
- ④SSIS との共催シンポジウムを大阪で開催します。

### (7) 東北 NEDIA (代表：川添良幸 理事)

- ①NEDIA Day 東北を仙台及び東北各県で企画・運営します。2026 年度は、宮城での開催を企画しています。

②東北における NEDIA の趣旨に賛同する団体との連携を進めます。

## 8. 委員会活動の推進

### (1) 首都圏フォーラム委員会 (委員長：堀 徹 理事)

- ①電子デバイス業界を取り巻く社会・技術の新しい変化を迅速にとらえ、情報を発信していきます。
- ②各部会と連携し首都圏フォーラム委員会ならではの運営について検討していき、適宜実施していきます、

### (2) 成長産業交流委員会 (委員長：鶴丸哲哉 代表理事・会長)

- ①他団体との連携及びアライアンス等の検討・実施を行います。
- ②経済産業省とは緊密に連携をとって、提案、受託及びプロジェクトへの参画を行います。
- ③NEDO とは緊密に連携して、プロジェクトへの参画及び戦略マップでの協調を図ります。
- ④SSIS とは、連携可能なアイテムにおいて連携していきます。
- ⑤SEMI ジャパン等とは展示会を通じた連携を進めます。

### (3) 電子デバイス・応用システム設計環境委員会 (委員長：小篠隆宏 理事)

電子デバイス、応用システムの設計活動において、電子デバイス産業の拡大に寄与する設計環境の枠組みを検討していきます。

### (4) コンプライアンス委員会 (委員長：漆原育子 (アーズ㈱ 取締役))

- ①新事業立ち上げにあたって独禁法等の法的課題を顧問弁護士と連携して対応していきます。
- ②ベンチャー部会と連携して、知的所有権でのサポートの進め方の検討をしていきます。

### (5) IR 広報委員会 (委員長：堀 徹 理事)

- ①HP の改善を継続して進めます。
- ②HP、NEDIA マガジンでの広告について、新事業創生委員会と連携して進めます。
- ③NEDIA 施策で広報を行ったが良いものについては、積極的にアプローチします。

## 9. 情報提供事業

### (1) 定期刊行物の発行

NEDIA マガジン：年 2 回発行の予定です。

会員名簿の発行：2026 年版を発行します。

### (2) ホームページの運営：継続して、内容の拡充を図ってまいります。

イベント情報及び関係省庁の通達等は適宜会員にメール配信します。

## 10. 事務局・顧問体制

(1) 事務局は、とりあえず専任 2 名、嘱託 1 名、ボランティア 1 名体制ですが、体制強化を目指していきます。

(2) 全顧問は任期途中につき、飯塚哲哉、河崎達夫、垂井康夫の 3 名を留任とします。

2026年度正味財産増減計算書(予算案)

第4号議案

(単位:円)

科目	25年度予算(A)	25年度実績(B)	26年度予算案(C)	予算比 (C/A)	見込比 (C/B)
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
入金・会費収入	25,360,000	25,735,331	25,650,000	101.1%	99.7%
特別会費収入	300,000	80,000	300,000	100.0%	375.0%
正賛助人会費収入	100,000	0	100,000	100.0%	
個人会費収入	22,700,000	23,447,332	23,000,000	101.3%	98.1%
事業収入	1,610,000	1,479,999	1,600,000	99.4%	108.1%
事業益	650,000	728,000	650,000	100.0%	89.3%
① 事業活動	5,050,000	4,303,148	5,050,000	100.0%	117.4%
事業活動収入	2,500,000	2,030,000	2,500,000	100.0%	123.2%
事業活動費用	50,000	0	50,000	100.0%	
事業活動利益	1,500,000	1,745,000	1,500,000	100.0%	86.0%
② 参加費	1,000,000	528,148	1,000,000	100.0%	189.3%
参加費収入	7,500,000	6,865,315	7,000,000	93.3%	102.0%
参加費支出	2,000,000	2,860,000	2,800,000	140.0%	97.9%
参加費利益	150,000	414,737	150,000	100.0%	97.4%
③ 講座費	5,100,000	3,213,050	4,500,000	88.2%	140.1%
講座費収入	1,300,000	1,039,750	1,000,000	76.9%	96.2%
講座費支出	1,000,000	1,569,000	1,500,000	150.0%	95.6%
講座費利益	1,300,000	329,800	1,000,000	76.9%	303.2%
講座費損失	1,500,000	274,500	1,000,000	66.7%	364.3%
受取利息	1,000	38,124	40,000	4000.0%	104.9%
寄付金	100,000	15,000	100,000	100.0%	666.7%
経常収益計	45,261,000	43,598,705	45,290,000	100.1%	103.9%
(2) 経常費用					
① 地域活動	18,365,000	18,267,408	19,345,000	105.3%	105.9%
地域活動費用	600,000	210,531	600,000	100.0%	285.0%
地域活動収入	1,500,000	1,527,686	1,500,000	100.0%	98.2%
地域活動支出	1,300,000	1,094,150	1,100,000	84.6%	100.5%
地域活動利益	4,000,000	5,666,526	4,000,000	100.0%	70.6%
地域活動損失	100,000	66,165	80,000	80.0%	120.9%
地域活動利益	1,300,000	965,561	1,100,000	84.6%	113.9%
地域活動損失	100,000	0	100,000	100.0%	
地域活動利益	100,000	113,080	100,000	100.0%	88.4%
地域活動損失	7,900,000	7,287,000	9,300,000	117.7%	127.6%
地域活動利益	300,000	320,252	300,000	100.0%	93.7%
地域活動損失	15,000	15,667	15,000	100.0%	95.7%
地域活動利益	950,000	720,791	950,000	100.0%	131.8%
地域活動損失	200,000	279,999	200,000	100.0%	71.4%
② 費用	9,210,000	8,826,992	9,030,000	98.0%	102.3%
費用収入	8,750,000	8,423,821	8,600,000	98.3%	102.1%
費用支出	2,600,000	2,493,037	2,600,000	100.0%	104.3%
費用収入	1,450,000	1,672,000	1,450,000	100.0%	86.7%
費用支出	1,800,000	1,646,820	1,800,000	100.0%	109.3%
費用収入	1,700,000	1,617,000	1,700,000	100.0%	105.1%
費用支出	70,000	66,000	70,000	100.0%	106.1%
費用収入	110,000	110,000	110,000	100.0%	100.0%
費用支出	150,000	26,633	0	0.0%	0.0%
費用収入	850,000	792,331	850,000	100.0%	107.3%
費用支出	20,000	0	20,000	100.0%	
費用収入	460,000	403,171	430,000	93.5%	106.7%
費用支出	0	352	0	0.0%	0.0%
費用収入	300,000	295,613	300,000	100.0%	101.5%
費用支出	30,000	13,339	30,000	100.0%	224.9%
費用収入	10,000	17,467	10,000	100.0%	57.3%
費用支出	60,000	36,140	40,000	66.7%	110.7%
費用収入	50,000	40,260	40,000	80.0%	99.4%
費用支出	0	0	0		
費用収入	10,000	0	10,000	100.0%	
③ 費用	4,960,000	4,226,632	3,600,000	72.6%	85.2%
費用収入	3,675,000	3,542,793	3,495,000	95.1%	98.7%
費用支出	1,250,000	1,110,400	1,200,000	96.0%	108.1%
費用収入	1,350,000	1,330,685	1,350,000	100.0%	101.5%
費用支出	950,000	792,000	800,000	84.2%	101.0%
費用収入	20,000	169,012	80,000	400.0%	47.3%
費用支出	100,000	140,696	60,000	60.0%	42.6%
費用収入	5,000	0	5,000	100.0%	
費用支出	1,285,000	683,839	105,000	8.2%	15.4%
費用収入	30,000	55,344	0	0.0%	0.0%
費用支出	70,000	51,701	70,000	100.0%	135.4%
費用収入	5,000	4,804	5,000	100.0%	104.1%
費用支出	10,000	0	10,000	100.0%	
費用収入	15,000	21,990	15,000	100.0%	68.2%
費用支出	1,150,000	550,000	0	0.0%	0.0%
費用収入	5,000	0	5,000	100.0%	
④ 費用	11,870,000	11,351,973	12,390,000	104.4%	109.1%
費用収入	3,200,000	3,052,800	3,800,000	118.8%	118.8%
費用支出	1,300,000	1,005,577	1,300,000	100.0%	129.3%
費用収入	2,000,000	1,906,671	2,000,000	100.0%	104.9%
費用支出	120,000	164,037	150,000	125.0%	91.4%
費用収入	150,000	248,509	230,000	153.3%	92.6%
費用支出	100,000	71,922	70,000	70.0%	97.3%
費用収入	300,000	457,369	300,000	100.0%	65.6%
費用支出	50,000	35,640	40,000	80.0%	112.2%
費用収入	800,000	769,532	800,000	100.0%	104.0%
費用支出	950,000	1,023,883	800,000	84.2%	78.1%
費用収入	1,700,000	1,615,048	1,700,000	100.0%	105.3%
費用支出	1,200,000	1,000,985	1,200,000	100.0%	119.9%
経常費用計	44,405,000	42,673,005	44,365,000	99.9%	104.0%
評価損益等調整前当期経常増減額	856,000	925,700	925,000	108.1%	99.9%
当期経常増減額	856,000	925,700	925,000	108.1%	99.9%
当期経常外増減額	0	△ 152,000	0		
当期一般正味財産増減額	856,000	773,700	925,000	108.1%	119.6%
一般正味財産期首残高	11,421,773	11,421,773	12,195,473	106.8%	106.8%
一般正味財産期末残高	12,277,773	12,195,473	13,120,473	106.9%	107.6%
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	0	0	0		
指定正味財産期首残高	0	0	0		
指定正味財産期末残高	0	0	0		
III 正味財産期末残高	12,277,773	12,195,473	13,120,473	106.9%	107.6%

## 第5号議案

### 役員体制について

現在の理事22名及び監事2名は全員任期途中であり、全員留任となります。

(50音順)

役職名	氏名		所属
理事	相原 正巳	留任	アルプスアルパイン(株) 執行役員CTO コンポーネント事業担当
理事	泉谷 渉	留任	(株)産業タイムズ社 取締役会長
理事	岩坪 浩	留任	(株)村田製作所 代表取締役 副社長
理事	小篠 隆宏	留任	ケイレックス・テクノロジー(株) 代表取締役社長
理事	押部 弘	留任	(株)東設 代表取締役社長
理事	川添 良幸	留任	東北大学未来科学技術共同研究センター シニアリサーチ・フェロー
理事	北村 隆幸	留任	メテック(株) 代表取締役社長
理事	齋藤 昇三	留任	(一社)日本電子デバイス産業協会
理事	櫻井 一郎	留任	櫻井精技(株) 代表取締役社長
理事	佐々木 元	留任	(株)メガチップス 理事 ASIC事業本部 副事業本部長
理事	佐藤 中則	留任	(株)野毛電気工業 代表取締役社長
理事	清水 孝雄	留任	アーズ(株) 代表取締役社長
理事	周藤 仁吉	留任	(一社)日本電子デバイス産業協会
理事	瀬川 澄江	留任	東京エレクトロン(株) 執行役員 Corporate Innovation本部 デイビジョンオフィサー
理事	千葉 芳弘	留任	日総工産(株) 人財育成部 スペシャリスト
理事	鶴丸 哲哉	留任	住友精密工業(株) 代表取締役社長執行役員
理事	中村 孝	留任	ネクスファイ・テクノロジー(株) 代表取締役社長、大阪大学 教授
理事	西村 光太郎	留任	元 (株)日立製作所 半導体グループ 甲府製造本部長
理事	南部 修太郎	留任	(株)アセット・ウィッツ 代表取締役
理事	堀 徹	留任	野村マイクロ・サイエンス(株)
理事	南 洋一	留任	リソテックジャパン(株) 代表取締役
理事	三宅 賢治	留任	オフィス三宅 代表
監事	釜原 紘一	留任	元 三菱電機(株) 半導体マーケティング部長
監事	川端 章夫	留任	インテラープ(株) 取締役、元 (株)東芝